の萬物は皆是無常也。❶恨くは身を師子に飼ざりける事を。南無歸命十方佛、我心の淨きことを表知し給へと喚りき。爾時に天の帝釋狐の文を唱る事を聞給て、自下界に下り、井の中の狐を取上給て、法を説❷給へとの(宣)給ければ、狐云、逆なる哉。弟子は上に師は下に居たる事を、と云ければ諸天笑給へり。帝釋誠にことわりと思食して、下に居給て法を説給へとの給ければ、又狐云、逆哉。師も弟子も同座なる事を、と云ければ、帝釋諸天の上の御衣をぬぎ重て高座として、登せて法を説しむ。狐説云「有人樂生惡死。有人樂死惡生云云。文心は、人有て生る事を樂て死せん事をにくみ、又人有て死せん事を願て生ん事をにくむと。此文を狐に値て帝釋習給て狐を師として敬給けり。天台御釋云 雪山は隨鬼偈を請ひ、天帝は畜を拜して爲師。囊臭きをもて其金を❸捨る事なかれ、と釋し給へり。されば何に賤き者なりとも、實の法を知たらん人をいるがせにする事あるべからず。然ば法華經の第八云 若實 若不實 此人現世得白癩病云云。文の心は法華經の行者のとがを、若は實にもあれ、若は不實にもあれ、云ん者は現世には白癩の病をうけ、後生には無間地獄に墮べし、と説れたり。此等の理を思つづくるに、大地の上に針を立てて、大梵天宮より糸を

❶(常に)十恨㊥ ❷説給へ＝説け㊥ ❸捨＝奇㊥